

を製造する新工場を建設する。敷地面積は 16 ライ(2.56 ヘクタール)、工場の延べ床面積は 7 万 1,307 平方メートル超。最新型の混合機を導入して生産効率を高めるとともに省エネ・環境対策を重視した工場となる。年産能力は既存工場を 70% 近く上回る 35 万 9,086 トン超。工場は 2 期に分けて建設し、第 1 期は今月着工して来年 11

月に完成。第 2 期は来年 10 月に着工して 2028 年 4 月に完成する。

工場の設計はメトリック・コンサルティング・エンジニアズ・アンド・アーキテクツが、建設は大手リターが請け負う。

【タイー電機】

篠原電機、タイで信号補助装置の実証実験

日本の国土交通省とタイの運輸省は 17 日、タイの首都バンコクで電材部品メーカーである篠原電機(大阪市)が開発した高齢者・視覚障害者用の信号補助装置の実証実験を実施した。同社は実験を通じて、装置の有効性や利便性をタイ当局に訴求する。

同実験は、両省が締結した道路交通分野の協力覚書に基づき、昨年 2 月に実施した道路交通技術セミナーを踏まえ、歩行者道路環境の改善に向けた取り組みの一環となる。タイの視覚障害者や運輸省の関係者などを被験者として迎え、信号補助装置である L E D 付き音響装置 2 基を模擬交差点として設置した検証を行った。



視覚障害者に信号補助装置の使い方を説明する篠原電機の兼崎氏(左端) = 17 日、タイ・バンコク (NNA 撮影)

信号補助装置は高さ 1.2 メートルの円柱形で、横断歩道の前に設置される。通常の歩行者用信号機は対岸にあり、視覚障害者には見えづらいためだ。装置の頭部を進行方面に対して高くなるよう斜めに設計することで、手を置くだけで対岸の方向を認識できるようにした。また、色覚障害者の人向けに青信号と赤信号の違いを表示する L E D は、色と形をそれぞれ赤と四角形、青と円形にした。

実験に参加した視覚障害者のスラサック氏は N N A に対し、「視覚障害者にとって音は重要な目印になる。信号補助装置により道路の横断が容易になるが、タイの交通環境に合わせて音やボールの位置を調整する必要があると思った」とコメントした。また、運輸省傘下の高速道路局の担当者は、「信号補助装置を導入する場合は、歩行者が安心して利用できるよう、警察と協力して赤信号を無視する車両などの取り締まりを強化する必要がある」と話した。

篠原電機の社会貢献推進室参事の兼崎暁美氏は「高齢者や視覚障害者の方の声を聞きながら、安心・安全に横断できる信号補助装置を開発してきた。その機能を直接体験してもらい、今後の道路環境の改善につなげてほしい」との思いを語った。

【タイーサービス】

A A P、タイ下請協会にジャパンデスク設立

国際会計事務所のアジア・アライアンス・パートナー(A A P)は 14 日、タイ下請け振興協会(タイ・サブコン)組織内にジャパンデスクを設置すると発表した。約 500 社に上るタイ・サブコンの会員企業と日本の民間企業、政府機関、各種関連機関とのビジネス連携の強化が目的。

A A P とタイ・サブコンは、共同でジャパンデスクを

設置する旨の覚書を 13 日に交わした。タイ日両国における投資、事業拡大、ビジネスパートナーを求める企業に関するセミナー、交流イベント、ビジネスマッチング、情報交換や連携等を実施していく。

A A P はタイ・サブコン内で日本の民間企業や各機関の窓口となり、タイと日本のビジネス交流・拡大の機会を増やしていく。